

## 千里の鳥・万博の鳥第57回「シジュウカラ親子」(2017年6月)

鳥の世界は繁殖期、ほとんどの鳥は年に1回、子供を育てるが、春～初夏に繁殖する種が多い。

その理由として、普段は植物食のスズメ等も、ヒナは動物食(昆虫等)で育てるため、繁殖するにはエサが豊富なこの時期が最も良い。

シジュウカラなど小鳥たちのヒナは、卵から孵化して2週間で巣立ちするが、短期間で早く成長させるためには高栄養価の餌として、虫たちの幼虫(いわゆる青虫)を利用している。シジュウカラは一年中、幼虫～成虫までの昆虫を主食としているが、この時期は自分の分だけでなく、子育て用の餌も多く必要なので、昆虫の採取量は非繁殖期の2倍以上になると思われる。

シジュウカラの体重は15グラム前後なのに、1羽が1年間に食べる虫の量を蛾の幼虫に換算すると、12万5千匹になるというドイツの研究があり、しばしば森林における鳥類の役割の重要性を知るデータとなっている。また、食べられる側の虫については日本での研究があり、アメリカシロヒトリという蛾4287個の卵から、幼虫・さなぎを経て成虫になれたのは僅か7匹だったとのことである。

餌の昆虫がいたとしても、林の中にはエナガ・ヤマガラなど他の鳥もいるので、シジュウカラが独り占めすることはできていない。また、100%取りつくことなく見逃しがあることで、生き残った昆虫の子孫が来年度の鳥の餌になっている。

さて、写真で紹介のシジュウカラ幼鳥、この1年間に12万5千匹の虫を食べることができておれば、今年は親鳥となっている筈である。親鳥は自分が幼鳥時代にしてきたと同じように餌を求める幼鳥、大きな口のオレンジ色や、餌をねだる声に誘われ、せっせと餌を幼鳥に運んでいる頃である。

### ①日本野鳥の会大阪支部主催 万博公園定例探鳥会(6月)

幼虫をくわえ待っている幼鳥に餌を運ぶシジュウカラ、既に子育てを終え、林の中を幼鳥連れの家族で移動しているエナガなど、鳥たちの生活を遠くから観察しながら、園内を一巡する。

日時 6月10日(土)9:30~15:00

集合 自然文化園中央口

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・弁当、あれば双眼鏡。

熱中症対策の水分を十分に

服装 ハイキングと同じ。

参加費 大阪支部会員100円、非会員200円

他に万博公園入園料250円が必要

### ②吹田野鳥の会主催 万博公園平日探鳥会

万博公園で子育て中の鳥、シジュウカラ・ムクドリ・スズメ・カイツブリ・バンなど、2週間前の探鳥会で観察した幼鳥に出会えるかどうか、どれほど大きくなっているかを楽しみに、自然文化園内を一巡する予定。

日時 6月20日(火)9:30~12:00

集合 自然文化園中央口

解散 自然文化園内の予定

担当 山口講二氏他

持ち物・服装 上記①と同じ

参加費 吹田野鳥の会会員無料、非会員200円

他に万博公園入園料250円が必要



種名：シジュウカラ

撮影年月日：2016年5月24日

撮影場所：万博公園

撮影：有賀憲介